

同志社百年にのぞむ



新しい価値体系を
実現せよ

永末 英一

△元文学部講師、衆議院議員▽

太平洋戦争の敗北によって、日本人が明治
いらい、きずきあげてきた価値体系のすべて
がくずれおち、しかも、それにかわる新しい
価値の高樓の土台も固らぬままに時は流れ
た。ひとびとは、生きる目標をまさぐり、そ
の日の幸せを追い求めながらも、そうした生
き方には満たされぬ焦慮を感じ、いいしれぬ
不安に責めさいなまれている。

いかに生きるべきか。ひとびとは、ひとり
ずつこの設問を胸にかかえ、もてあましてい
る。それは、いったい何を意味するのであろ
うか。わたくしは思う。まさしく敗戦日本の
転換期が来たのだと。それはたんに社会制度
の転換のみをいうのではない。いな、むし
ろ、それを生み出す新しい価値体系創造の時
が来たことをいうのである。

封建日本がくずれ落ち、明治日本が、まだ

さだかにその姿を現しえなかったとき、創立
者新島先生は、キリストの教えを媒介にして、
国際性に裏うちされた自由の価値を示そうと
された。それは、なによりも人間の道であっ
た。しかし、その「人間」は宙に浮いたもの
ではなく、「日本人」そのものであった。先
生が、同志社によって実現しようとしたも
のは、いうならば新しい価値体系であった。
二十世紀の後半、はげしい国際舞台で生き
抜いて行かねばならぬ日本を思うとき、同志
社の一〇〇年は、あらためて、その誕生の意
義をわれわれに反省させるのである。

人間に対する同志社の
角度の発見

平林 一

△商業高校教頭▽

私が安永武人さん、松下貞三さんのあとを
うけて、同志社商業高校の国語科非常勤講師
になったのは、一九五〇（昭二五）年九月の
ことでした。そのとき私はまだ京大生だった
のですが、それ以来もう十五年もの歳月が過
ぎてしまったわけです。

学園というところは、やはり教育と研究が大切な両輪だと思えます。教育と研究の面に活力があふれ、しかもそれが世界や人類に向ってひらかれていなくてはならないと思えます。鶴見俊輔さんは、「人間に対する同志社のな角度をみつける、つまり日本人のみならず、世界の人間に対する同志社の角度を新しくみつければならない」（同志社時報十五号）というふうな問題をたてられ、新島襄脱藩の意味を検討し、それを受けつぐことを要請されていました。開かれた角度において「人間に対する同志社の角度」を発見することは、激動する二十世紀後半の歴史のなかでは必要なことだと思えます。日本の近代ももう百年になろうとしています。同志社がいかにして、どのような方法においてその角度を発見してゆくか、それが創立九十年から百年にかけての十年間に同志社がはたすべき大切な課題であると思えます。

この秋は同志社創立九十周年記念式典が行われようとしています。この機会に私は、日頃おろそかになっている「同志社と自分」という問題を深く考えてみたいと思っております。

新しい大学への
ビジョン

麻田 貞雄
△大学アメリカ研究所研究員▽

広々とした同志社大学の新キャンパスの中心は、十年前に完成した学生会館の何倍もある図書館と大学院の建物だ。学生たちは、昔のように騒然たる大教室で講義を聞くかわりに、完備した図書館でじっくり本を読み、独力で考え、価値判断を下すことを要求される。そしてそのための指導を通じて、教師との間に学問的・人格的接触が行なわれる。また、大学教育が普通教育化したため、勉強への意欲に燃えた学生は大多数、大学院へ進むようになる。いまや、「日本の同志社」は「世界の同志社」へと飛躍をとげ、その学問的水準に惹かれて世界各地から数多くの教授、研究者、学生が集まってくる。もちろん、旧来の学部構成は大幅に変更され、ますます専門化する諸分野を統合する努力の一環として、地域研究なども活発に行なわれる。

このように発展していく過程で、新島精神

の低下が例によって叫ばれるが、その対策として、まずマス・プロ教育の弊害が是正され、意欲的な若者に対しては、それぞれの能力を最大限に伸ばしうるよう特別に指導・援助する、良い意味での英才教育が実施される。また、個性的な同志社人を育成するため、学園の「一貫教育」が強化される。これら改革の原動力は、一昔前の「若い世代」であり、慢性的化した同志社のお家騒動も、その頃には昔話となっている。

百周年までに、こんな同志社になっていれば楽しいだろう、と考えることがある。

精神主義教育の

徹底

荒川 民助

△高校教諭▽

創立九十周年にあたって、同志社のあるべき未来像として、一つの必須条件を考えてみたい。ある意味で現代は物質主義偏重の時代であり、人々はそこに幸福を求めることに追われて、精神主義を軽視している。こういう

時代の風潮の中にあつて、精神主義追求の場ともいえる学校における教師と学生との間にも、真心のこもつたコミュニケーションに欠け、教育が進学、就職の手段となつてゐる感
を免れえないのは全く憂うべきことである。

思えば、創立者新島先生が同志社創立にあつて、学園から送り出される若人たちに託された理想は、果して現代にみるような物質的、利己的人間像であつたであらうか。「……百年のはかりごととは人を植えるにあり……」と述べて、キリスト教のヒューマニズムと良心をモットーとした人材を養成することを志された創立者の期待にそうことが、私学同志社に学ぶ教師と学生に与えられた課題であり、義務でもあることを深く心に留めておかねばならない。同志社の未来像も、この理想を現実の学園生活に活かす道を探求し、それを自分のものとした若人たちが続々と社会へ送り出されていく時、同志社本来のあるべき姿に到達したといえるのではなからうか。

クローバに

ついて

松原一郎
△女子大学助教授▽

二十有余年も前になりましたか。ホトトギスに掲載された一つの句「クローバに坐り同志社女学生」というのがありました。句それ自体について間然するところはありますまい。しかし、この句は三つ葉が智徳体を表わすともうかがいますだけに、今なお懐しく偲ばれるのです。

人がいかなる方面にたずさわるにせよ、大きな業績を残すためには、智・徳・体の三要素が併存して大きな値を示すのでなくては、大した成果を期待出来ないと思われる。世に優れた業績を残しながら、惜しいことに健康に恵まれなかったがために、若くして世を去つた人も少くない。ところで、智・徳・体の三要素はいずれも天賦のものであり、その人の心掛け次第で、ある程度までその値を大きく育てることが出来るように思われる。さらにこれは恐らく均衡のとれた智・徳・体が真

に調和ある形にて発揮された時に、そこから自ら現れて来るのではなからうかと思われるのが、情の面であろう。いわゆる知育、徳育、体育の三つに加うるに情育ということである。良きサマリヤ人の例に、私たちは生命の尊さを教えらる。また、もののおわれを知るということは孟子の惻隱の情でもある。非情の論理によつて貫かれてゐる近代物質文明の真只中において、今にして情育の面が閑却さるるがごときことあらばと、まことに他所ごとには思われぬのである。

高い質の

教育

樋口和彦
△神学部助教授▽

一口に言つて質である。量のエネルギーに見合う精度の高い質の教育内容がどうしても期待される。同志社の歴史は受難の歴史でもある。個々の日本人が善良であつたのに、なぜあのような集団的な悪魔性をもつていたのだらうか。未だ答えられていないし、日本の

教育はやはり形式的、画一的、権力的色彩をどうしても抜けきっていない。個が鍛えられしていない。そこで同志社教育の伝統が生かされねばならない。時流が大学の無性格化に向うなら、どうしても伝統に根ざす同志社における教育の特殊性が強調されねばならぬ。権力に対して強くあると同時に自ら治むるに強くあること、この質がどうしても問題である。この十年間どうしても、自治を通して現在の教育の歪みをどうしても是正して行かねばならぬ。

日本の教育に対する問題と共に、アジアの大学としての同志社を次にどうしても考えねばならぬ。アジアの諸国における大学の果たす任務は大きい。留学生、研究を通して積極的な働きかけが期待されているのではなからうか。現在三十名足らずの留学生の数を増加させるばかりでなく、是非国外の卒業生との連絡を活発にし、西欧の大学にない独自性を発展させたい。

最後に、自ら反省することなしに言えないが、キリスト教主義という精神が「建前」から「いきて働く」ものとなることが期待されると思う。キリスト教徒であろうとなかろ

うと、この共同体の責任を負いあうという意識、その対話の中で次第にこの質に魂が入ってくるだろう。

今出川校地を

女子学園に

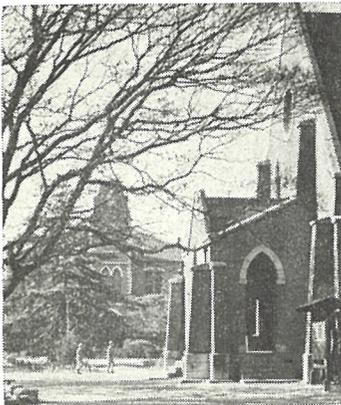
木下 信夫

△女子中高教諭▽

第一に学園の校地再編成である。最近、本校で旧希望館・新生館の解体と新希望館の完成をみ、運動場がやや拡張され、女子部始まって以来といわれる本校内での運動会が行なわれた。しかし、中高六学年にとっては、今の二倍の運動場も礼拝堂もほしい。女子大の家政東館を撤去して下さったら、体育館を中高に譲って下さったらと願っている。女子大が大学の図書館までを校地とされ、栄光館を真中に女子大、女子中高と分けるか、更には、女子大が現在の大学の構内に移られ、今出川校地は御苑を前にした静かな女子学園となつてほしい。大学は広大な土地を外に求め、順次、狭い今の校地から渠立っていつてはど

だろう。これは単なる女子中高教員のエゴイズムではなく、学園全体の総合的な計画として一考していただけたらと思う。

第二に、中高教員の義務時間の軽減である。現在は週十八時間、給与がほんの少しあがっても時間はお金で買えない。私は、いま授業二十時間、ロングのホームルーム一時間、学級担任、宗教部顧問、宗教委員会委員、教諭会運営委員、弁論クラブ顧問、合奏クラブ顧問等々である。生徒と共に……もうれしいが、熱心だけで学園の方は……と首をひねられる、そんな教師にはなりたくない。これから十年間、どうなっていくだろう。同志社百年には空間的にも、時間的にも、ゆうゆうとしたい。



教育の質

の向上

小倉 昭平

△中学校教諭▽

同志社創立九十周年を迎え、このことを記念して将来を考えることは極めて意義深いと考えます。創立以来の九十年の歴史から、同志社の成長と発展、社会に対しての意義が確認され、現在の同志社の場からは、将来の問題が明らかにされる必要があります。明治・大正・昭和の社会の発展の結果である現代にしっかりと立脚し、同志社創立の新島先生の意志を受け継ぎ将来に対する問題を明らかにしつつ、この十年の歩みが進められ創立百周年を迎えられるべきと考えます。

教育に当る者が現在において、そして将来においても注意するのは「教育の質」とそれを高める課題です。それは教育の中味を意味します。高められた質の教育が進められていく創立百周年の同志社を像にえがきます。日本において、世界において、教育は注目され、それを高める努力が日々なされています。科

学の発展、技術の発展、社会発展の動向、これらが著しい現在は、教育が注目されている時です。同志社においても、「現代」がしっかりと受けとめられ、今後に対し教育のことが考えられるべきです。そこから現代において確認される同志社教育の実質が作られて行くべきです。

「教育理論、教育内容、教育条件、研究条件において発展した、生々として教育が進められている創立百周年の同志社」をえがいて前進の一步を導きたいと考えます。

信仰と共存する

良心

萩原 溢 恵

△女子大学講師▽

『良心の全身に充滿せる丈夫の起り来らんとを』、しばらく碑のことも忘れて外国で過していたが、再び碑に会う機会が多くなった。良心というものは現代社会にはあまり通用しない。それは湿っぽい倫理家が昔から言い続けている無力な説教の一つ位に考えられてい

る。だがわれわれはまさか「古人の遺志」で碑を残しているわけではあるまい。学園の年数など、それ自体では大して重要でないが、その歴史の中に生きていくわれわれは、時々刻々一つの間を追いかけられているのは事実である。曰く「良心に充滿せよ」と。

わが国で良心といえば既にそれ自体良いものであるとの意味を含んでいるが、それだけに全く曖昧な言葉である。碑句は、思惟の原理としての自己が世界を凌駕している自由の行使者として、自己自身と同時に連帯社会に対し、責任をもつ存在であることを認めさせようとしているのであろうか。原理論はともあれ、一個の完全な、しかもかけがえのない人間が、「かくあるべし」との命令を、強いられて行うのでなく、自由な行為に従順として受け入れ、自己を唯一の規準とし、過去に安住したがる人情に戦いをいとみ、過去の現実と答としての生き方を打ち出してゆく気概を喚起していると思う。それはいわゆる道徳を越え、いわゆる合理的判断を越えて、神への信仰と共存しなければ無意味である。信仰と共存する良心の充滿した人間が、同志社協同体に真に求められているのだと思う。

個の自覚

林 彰

△香里中・高校教諭▽

同志社の根本理念は、キリスト教民主主義だと思えます。「設立の旨意」を一読すれば、それが余すところなく書かれています。従って同志社教育とは、この理念をどんな風に実現して行くかということになります。簡單明瞭のようですが、私たちの生き方（もちろん生徒への対し方を含め）に直接かわってくる複雑な問題が潜んでいると思われまゝ。キリスト教民主主義という場合、第一に考えるべきことは、私たちの個の自覚です。神の前に立たされた時、私たちは絶対絶命に独りですし、民主主義の思想的基本においても、私たちは、たった独りです。まずこの孤独の自覚から出直す必要があります。このことに合点が行けば、当然個人の義務や責任の輪廓がはっきりして来るはずですし、人間性の尊重などということは何でもなく解ると思えます。第二は個の自覚を、どのように私たちの

連帯感の中に組み入れて行くかが問題となります。この時、苦しみや矛盾撞着がいろいろ起つて来る。しかし、この場合こそ、余程個の自覚がないと成功しません。駆け引きや、鳴り物入りでなく、お互いの尊敬と愛情に凭る紐帯でない限り、本当のものにはならな

ない。ところで現在の日本の私立大学はこの組織体に筋を通す原理原則に欠けるものがあるようである。従つて財政的な側面をもつ「経営」と組織目標である「教学」（研究をも含めて）とが常に二律背反的にとらえられる。二者間には相互不信があり、混乱があり、教育対象である学生に一元的な姿勢をとることができない。決して秩序ある一体となったもの、という表現に合しない状況である。

組 織

松 崎 昭 三

△大学職員▽

そしき①「組織」(名・他サ) ②くみたて。

◎物・(人)が集まって秩序ある一体となつたもの……以下略……金田一博士・明解国語辞典の解釈である。

私立大学も人、物が集まって「教育」という事業を行う組織体であることはいうまでも

まず確立すべきは教学面における現在の目標である。大塚前総長のいわれるように、「校庭の人口は過密であり、教室の学生は多過ぎ、負担は重く、先生方には気の毒なことが極めて多い」が、いたずらに過剰な学生に対する諸問題に非を鳴らすばかりでなく、同志社教育の目標がこの条件の中で考えられねばならない。ここに「これは先生方も当然分担せねばならない学園の運命」(大塚前総長・タイムス八月十五日号)という諦観念でない積極面が生れるであらう。

財政問題のためにマスプロ化された教養が自己確立を通じて、主客の転換を行うことが組織に活を入れることであり、ここに同志社百年の展望があると考ええる。

アジア・アフリカ

との連帯を

近藤 公一

△経済学部助教授▽

同志社の過去一世紀の歩みは、日本の近代化一世紀の歩みであった。これから以後一世紀の同志社の未来を考えると、やはり、われわれは日本の未来を考えざるを得ない。これからの日本を考えると、これは、これからの世界を考えると、ということである。これからの世界において日本は何をなし得るか。――過去百年の歳月をかけてわれわれは西欧に学び、さまざまな過誤をも含めて世界の先進国の一員となった。これからの世界は、おのこの民族がおのおののナショナリズムを止揚して、真に平和な一つの世界を指向せねばならぬ。その理想の実現には、恐らく世紀をもって教えねばならぬ歴史的段階を踏まねばなるまい。われわれもまた、決して近視眼的な目前の流動にのみ目を奪われていてはならぬ。百年前、同志社を創立した新島襄には、百年後を見る巨視的な洞察があった。前時代的

な英雄は出ずとも真の近代社会の要素となるすぐれた市民が無数にこの学園に育って行った。――この歩みは、今後、アジア・アフリカの新しい国々の歩む道である。これからの同志社は、その自由な私学の精神を最大限に生かし、学問、教育の場を通じて、具体的、積極的にそして誠実にアジア・アフリカとの連帯を深める方向を今後百年の計として樹立すべきである。

求心的な

沈潜を

宮沢 正典

△女子中高校教諭▽

虚心平氣に問うてみていたきたい。マスプロ論者はいったい、万余の学生大衆の中に孤独な自分を埋めてみたことがあるのか。期末ごとの千余枚の答案やレポートを、その学生

の人格と接するように精読しているのか。眞面目にみてもおおよそ品位のない同大生がいたとき、自分のこととしていたみを覚えていたのか。全学ストライキという異常を異状と

感じて対処しているのか。これらはわたし自身に問うべきことだろう。「イエス」という虚勢はやめていただきたい。知識や技術さえも充分与えられない非人格的な状況のもとで、キリスト教主義教育が高調されるとき、それは一種の遁辞とさえなってしまうだろう。学生たちはその中で、どういう真摯な誇りをもちうるのだろうか。

新島先生の「同志社大学設立の旨意」は普遍的であるとしても、現状は、同志社の教育理念が千余人の教職員と二万余人の学生生徒に徹底できる状況だろうか。実力を超えた課題であるように、わたしには思える。わたしが同志社百年にのぞむのは、延伸の無策よりも、求心的な沈潜こそが、良心的な人びととるべき策だと考える。

教学において、「同志社大学設立の旨意」を思いかつ述べるとき、うしろめたくない同志社でありたい。

安定した長期計画

の樹立

佐 橋 寿 郎

△中学校職員▽

(一) 創立以来の同志社の良心——その言葉の本質が、教育のなかに生きて働らき続けること。

(二) 学内諸学校の全体の連帯において、安定した長期計画が樹立されること。

(三) 文献資料センターが構想され、実現されること。それが設立諸学校の教育計画、研究活動をすすめるための、共同利用に供されること。

トップレベルの 中学生になろう

中 条 潮

△中学校三年▽

ぼくは中学生として、同志社が百年を迎えた時の中学のあるべき未来像を考えてみた。

単に空想をたくましくするだけならどのような未来像もえがけようが、自分もその実現への責任を果す覚悟でまじめに考えれば、常にいわれていることであるが、同志社中学のどの生活を見ても、その一人一人が知・徳・体の三面において、最高レベルで秀れた中学生でありたいと願う。このことは、朝夕にぼくたちがきもに銘じていることであるが、実際は、まだまだ努力が必要である。推薦で進学できるからとついのおんびりしたり、自由な学風の裏に責任があることを忘れたり……。先生方が心をこめてされる指導をガツチリとうけとめて、生徒が九百人いれば、どの生徒を見ても、その知識において、わが国の中学生のトップレベルにあり、体育にもすぐれ、その道徳面においても日本中の中学生の模範となるような、つまり、一面だけにおいて秀れているのではなく、総ての面において最高水準の、いわば、中学生中の中学生が揃っている中学になってほしい。

同志社創立百年まであと十年！ この十年間にこれは不可能ではない。ぼくたちのあとに続く生徒たちの努力にも期待せねばならないが、まずぼくたちがベストを尽くして努力

することからその可能性が開けてくる。あるべき未来像は腕をこまねいて、くるのを待つのではなく、自分の手で切り開いていくべきである。

